

岩手医科大学報

Iwate Medical University News

2010・6 vol.405

●発行者—学長 小川 彰 ●題字—理事長 大堀 勉



附属病院外来コンサート〈関連記事：P8〉

おもな内容

- 巻頭言／事務局組織の飛躍に向けて 事務局長 高橋 俊雄
- 緑が丘グラウンド整備工事の完了
- 平成22年度予算
- 新人職員教育研修会を受けて
- 「烏帽子岩」と「三ツ石」の巨石



事務局組織の飛躍に向けて

事務局長 高橋 俊雄

この度、4月1日付で佐藤久伸前事務局長の後を受け、大堀勉理事長先生から事務局長を拝命いたしました。本学では現在、矢巾キャンパスへの総合移転整備計画第二次事業他数々の事業が進行中であり、あるいは計画されている中、事務局を束ねて行かなければならない大変な役割に、身の引き締まる思いであり、もとより私自身浅学非才であります。重責を全うしたいと思いますので、大学全職員の皆様方のご指導ご高庇を賜りますようお願い申し上げます。

さて、社会情勢、政治情勢その他世界情勢も刻々と変化しており、それに呼応して大学、病院運営は日々難しくなっており、時代に即応した対応が不可欠となってきております。それには内外からの情報入手やそれを分析し、本学に有益なものを仕分け、企画・立案、そして実行するまでいかにスピーディーに進めるかが問われています。事務局はその先駆的役割を果たさなければならないと考えております。

「職員が元気な大学は、大学全体が元気」と有識者の誰かが言われたように、これは感覚的なものではなく、いろんな情報、アイデア、意見、提案を吸い上げ、何が本学のためになるのかを考え進言する「元気」という意味であります。この「元気」を出せるような環境づくりをして行きたいと考えております。具体的には個人の人間形成、能力の向上、そのための教育、研修等様々な方法がありますが、最初から完璧な人は

おりません。完璧でないからみんなで協力し努力して少しでも良くして行こうという気持ちが大切ではないかと思えます。私の任務の一つは事務局組織を一塊の強固な組織にすることにあると考えております。戦国時代や中国の歴史の中でも、わずか数百の兵が数万の兵を打ち破ることがあったように、心を一つにして戦えば幾多の課題に対しても少しは勝機もあるのではないかと考えております。

私学である以上費用対効果は頭のどこかになくてはなりません。結果の見えないことを恐れて前に進めないのでは他大学より「一歩先んじる」ことが出来ないということも確かです。

まだまだ未熟であります私個人あるいは事務局に対する更なるご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。



〈朝8時からの事務局長・部長会議にて〉
左から 総務部長、学務部長、事務局長、企画部長、病院事務部長、財務部長

緑が丘グラウンド整備工事の完了

本法人と(株)寿広及び宮城開発(株)は、平成21年8月18日に土地等価交換契約を締結し、緑が丘グラウンド機能の補償を目的とした整備工事を同年8月24日から進めてきました。これは、日本たばこ産業技術センター跡地の宅地開発事業に伴って、本法人所有のグラウンドの一部を宅地進入路用地として開発するためです。

本年4月28日に工事が完了したため、完成した主な設備をご紹介します。

野球場北側及び西側には、高さ15m・20mの防球フェンスが約230mにわたり整備されました。また、ダッグアウトやスコアボードの他、水道設備も新たに整備されました。



防球フェンス (野球場側)



ダッグアウト2基



野球用スコアボード

開発された宅地の進入道路沿いには、高さ10mの防球フェンスが約300mにわたり整備され、テニスコート前には新しく水洗トイレが設置されました。



防球フェンス (宅地進入道路側)



水洗トイレ (テニスコート前)

平成22年度 予算

本法人の平成22年度予算が、3月29日に開催された定例理事会及び定例評議員会において承認されましたので、以下予算の概要についてお知らせします。

なお、予算の詳細について説明・確認を希望される方は、財務部経理課に照会願います。

予算編成にあたって

『誠の人間を育成する』という本学の目的に鑑み、教育・研究・医療のさらなる活性化と質的向上を目指します。そのため財政的には効率的な収支の均衡を図り、資金確保に努め財政基盤の強化に取り組んでいかなければなりません。

大学を維持するためには入学定員充足が不可欠であり、本学の特色である医学部・歯学部・薬学部の三学部連携による教育体制を構築するなどし、学生を確保していかなければなりません。

医学部は、医師不足の解消のため平成22年度も15名の定員増が認められ、入学定員は125名となりました。一方、歯学部は国が入学定員の削減を打ち出しており、非常に厳しい環境にあります。また、歯学部および薬学部については全国的に志願者が減少しており、本学独自の施策によりその確保に努めなければなりません。

事業計画については、総合移転整備計画第二次事業は、医学部・歯学部の基礎部門および共同研究部門な

どの移転整備が平成21年度に着工し、平成22年度内の完成を目指し進められており、さらに、矢巾町藤沢地区用地（C地区）の取得が予定されています。また、平成22年度に完成予定の7テスラMRI研究施設および放射線治療施設の建設などがあり、大規模な事業資金を要する年度となっています。

財源確保については、総合移転整備計画第二次事業および病院移転に多額の資金を必要とすることから、その確保に努めなければなりません。特に、帰属収入の約7割を占める医療収入については、平成22年度診療報酬が10年ぶりにプラス改定となるため、内容を検証し着実に増収につなげていかなければなりません。

予算編成にあたっては、理事会が決定した諸施策を実行し、教育・研究・医療活動が円滑に遂行できるよう配慮しつつ、自主財源の拡大を図ると共に、経常的経費の厳しい節減に努める圧縮した予算編成としました。

主な予算項目

平成22年度消費収支予算の主な項目について説明します。

収入予算は、学生納付金74億8,013万円（帰属収入に占める割合17.7%）、医療収入280億8,078万円（同66.6%）、補助金27億7,818万円（同6.6%）を計上しました。これら3項目で帰属収入の90.9%を占めております。その他の収入は38億2,205万円（同9.1%）を計上し、基本金45億円を組み入れたことにより、消費収入予算総額は376億6,114万円となりました。

支出予算では、人件費190億607万円（消費支出に占める割合49.2%）、医療経費（医薬品費、医療材料費、給食材料費）102億4,413万円（同26.5%）、その他の諸経費等94億1,094万円（同24.3%）を計上し、消費支出予算総額は386億6,114万円となりました。

消費収入から消費支出を差し引いた消費収支差額は、△10億円であり、本年度は支出超過（赤字）の予算編成となりました。

本学の財政は、帰属収入の約66.6%を医療収入に委

ねており、また支出においては、人件費（49.2%）と医療経費（26.5%）で約75.7%を占めております。財政基盤の確立には引続き医療収入の増収と医療経費の適正・効率化を念頭に入れ、教職員一人ひとりが経費全般の節減に努めていかなければなりません。

1. 学生納付金

学生納付金は入学金、授業料、実験実習費、教育充実費、施設整備費からなっており、医学部35億5,519万円、歯学部24億6,798万円、薬学部12億9,071万円、歯科技工専門学校5,675万円、歯科衛生専門学校1億950万円、合計74億8,013万円を計上しました。

2. 医療収入

附属病院（医科）、歯科医療センター、循環器医療センター、花巻温泉病院を合計した医療収入予算は、入院収入218億9,852万円、外来収入59億5,442万円、その他の医療収入2億2,784万円、合計280億8,078万円を計上しました。

3. 補助金

経常費補助金は17億5,800万円、臨床研修費補助金等その他の国庫補助金は1億9,741万円を計上しています。また、地方公共団体補助金は、高度救命救急センター運営費補助金、病院群輪番制運営費補助金等を合わせて8億2,277万円を計上しており、補助金は合計27億7,818万円を計上しました。

4. 人件費

給与・諸手当・所定福利費等の人件費は定期昇給分1.54%を見込んで177億2,316万円計上し、また退職金関係では退職金、退職給与引当繰入額に12億2,899万円等を計上して、合計190億607万円となりました。

5. 医療経費

附属病院合計の医療経費について、医薬品費は、対医療収入割合17.5%の49億2,525万円、医療材料費は同18.2%の50億9,609万円、給食材料費は同0.8%の2億2,279万円を計上したことにより、医療経費合計は102億4,413万円（経費率36.5%）の計上となりました。

6. 研究費

医学部、歯学部 of 講座研究費は、基本額を各学部で調整し配分額の変更を行いました。薬学部、共通教育

センターの講座研究費および個人研究費である特別研究費、学会旅費の予算は前年度と同額としました。

施設関係等の予算は次のとおりです。

1. 施設関係

土地では、矢巾町藤沢地区用地（C地区）の土地取得費20億円を計上しました。

建物・建物附属設備等では、次期病院情報システム更新付帯工事、6号館電気室制御用直流電源装置更新工事他、合計6億円を計上しました。

また、建設仮勘定では総合移転整備計画第二次事業新築工事の整備費に84億4,100万円、放射線治療施設の整備費に8億1,900万円、および7テスラMRI研究施設の整備費に3億2,300万円、合計95億8,300万円を計上しました。

2. 設備関係

教育、研究、診療、管理用機器備品、および図書購入予算として、41億9,305万円を計上しました。このうち総合移転整備計画第二次事業機器備品に18億5,000万円、放射線治療施設機器に7億1,800万円、次期病院情報システムに3億1,400万円を計上しました。

平成22年度 消費収支予算書

(単位：千円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金	7,480,130	人件費	19,006,070
手数料	159,750	医療経費	10,244,130
医療収入	28,080,780	消耗品費	888,730
寄付金	2,144,000	光熱水	853,200
補助金	2,778,180	旅費	217,650
資産運用収入	229,540	修繕費	517,300
事業収入	650,090	業務委託費	2,206,450
雑収入	638,670	減価償却額	2,516,730
帰属収入合計	42,161,140	その他の諸経費等	2,010,880
基本金組入額合計	△4,500,000	予備費	200,000
消費収入の部合計	37,661,140	消費支出の部合計	38,661,140
当年度消費支出超過額	1,000,000		

平成22年度 資金収支予算書

(単位：千円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金収入	7,480,130	人件費支出	18,994,820
手数料収入	159,750	諸経費支出	16,863,750
医療収入	28,080,780	施設関係支出	12,183,000
寄付金収入	2,044,000	設備関係支出	4,193,050
補助金収入	2,778,180	資産運用支出	3,214,250
資産運用収入	229,540	その他の支出	2,813,740
資産売却収入	500,000	予備費	500,000
事業収入	650,090	資金支出調整勘定	△2,316,080
雑収入	638,670	次年度繰越支払資金	10,291,970
前受金収入	1,586,380		
その他の収入	14,352,900		
資金収入調整勘定	△6,761,920		
前年度繰越支払資金	15,000,000		
収入の部合計	66,738,500	支出の部合計	66,738,500

岩手医科大学募金状況報告

● 総合移転整備事業募金

平成21年6月から始めました岩手医科大学総合移転整備事業募金に対し、格別のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

今後とも関係各方面からの格別なるご協力・ご支援を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

今回は3回目の御芳名紹介です。(平成22年3月1日～平成22年4月30日)

※御芳名及び寄付金額は、掲載を希望されない方については掲載していません。

会社・法人等 (16件)

<10,000,000円>

財団法人岩手県対ガン協会 (盛岡市)

<2,000,000円>

協栄テックス株式会社 (盛岡市)

医療法人芝蘭会 (盛岡市)

<1,000,000円>

医療法人社団帰厚堂南昌病院 (矢巾町)

医療法人和心会 鈴木内科医院 (盛岡市)

ALSOK 岩手株式会社 (盛岡市)

<200,000円>

株式会社盛岡セントラルホテル (盛岡市)

<御芳名のみ掲載>

三田農林株式会社 (盛岡市)

有限会社岩手医大歯学部売店 (盛岡市)

丸木医科器械株式会社 (仙台市)

株式会社三田商店 (盛岡市)

IM サービス株式会社 (盛岡市)

東北体育施設株式会社 (盛岡市)

東京美装興業株式会社 (東京都)

株式会社モリタ (大阪府)

株式会社パールもりおか (盛岡市)

(受付順、敬称略)

個人 (34件)

<2,400,000円>

圭陵会三八支部 (H21.12)

<1,000,000円>

木村 宗孝 (医32)

塚原 正典 (医19)

紺野 敏昭 (医23)

柳澤 融 (名誉教授)

<500,000円>

近藤 勝雄 (医4)

<300,000円>

染谷 秀雄 (父母)

須田 正房 (専18)

尾形 昌哉 (医45)

<100,000円>

宮井 尚宏 (医54)

駒野 宏人 (教職員)

藤田 達夫 (歯1)

古山 香里 (医48)

古町 克郎 (教職員)

椎名 康雄 (一般)

大西 基市 (父母)

<20,000円>

及川 好夫 (一般)

<御芳名のみ掲載>

齋藤 政孝 (医24)

工藤 俊雄 (医15)

畠中 稔 (教職員)

宮下 浩 (医19)

鈴木 ゆき子 (歯14)

三田 義之 (役員)

風間 吉也 (医2)

那谷 耕司 (教職員)

佐藤 久伸 (教職員)

遠藤 義忠 (医14)

米田 久美子 (教職員)

一戸 孝七 (名誉教授)

安住 倬 (専15)

西田 淳 (教職員)

前田 智司 (教職員)

稲毛 宏 (父母)

塚原 光典 (医48)

(受付順、敬称略)

これまでの募金累計額

区分	申込件数	募金金額(円)
圭陵会	284	137,445,000
在学生ご父母	127	56,040,000
役員・名誉教授	22	13,710,000
教職員	77	8,531,888
在学生	1	100,000
一般	64	62,710,000
合計	575	278,536,888

(平成22年4月30日現在)

表彰の栄誉

角田 文男 名誉教授 〔平成22年度春の叙勲「瑞宝中綬章」を受章〕



中綬章伝達式後の角田先生

角田先生は福島県立医科大学卒業後、昭和37年3月に北海道大学大学院で学位（医学博士）を取得されました。その後、福島県立医科大学助教授を経て、昭和47年4月に本学医学部衛生学公衆衛生学講座教授に任用され、平成11年4月に名誉教授の称号が授与されました。

先生は、フッ化物による大気汚染問題を解明し、防止対策を確立させ、この分野における国内外の第一人者として先導的な役割を果たしました。また、農村医学分野における農業労働問題の研究に取り組み、農民の健康保持増進対策を農業種別に提言し、農民への普及活動を展開するなど国内外から多大な功績が評価されています。

先生は、現在も専門分野についての執筆活動を続けており、今後も益々のご活躍が期待されます。

薬学部4年生2名が日本薬剤学会の懸賞論文に入選

日本薬剤学会が薬学部学生を対象に募集した「薬と健康の週間」懸賞論文において、本学薬学部4年の藤村哲雄さんが最優秀賞である第1席に、同じく4年の采澤（うねざわ）亜希子さんが佳作に入選しました。

二人は5月13日(木)に徳島県徳島市で行われた日本薬剤学会第25年会の会期中に開催された授賞式に出席し、賞状と副賞の図書カードを授与されました。入選した論文はいずれも「非薬剤師が医薬品を販売することについてどう考えるか」をテーマにしたもので、創剤学講座佐塚教授の指導の下、藤村さんはコンビニで医薬品を販売することの問題点を指摘し、采澤さんは登録販売者制について提言しました。

今後、二人の論文は日本薬剤学会の学会誌「薬剤学」に掲載される予定です。



左：采澤さん 右：藤村さん

省エネ推進委員会だより ~今年4月に省エネ法が改正、施行されました~

近年、エネルギー消費が増加傾向にある業務・家庭部門の省エネ対策強化を目的として、今年の4月に改正省エネ法が施行され、規制対象がこれまでの事業所単位から事業者単位（企業単位）へ変わりました。

改正前：一定量以上エネルギーを消費している『特定事業所』を規制 内丸キャンパスのみ対象

改正後：一定量以上エネルギーを消費している『特定事業者』を規制 大学が対象（矢巾・花巻・本町等も含む）

特定事業者の義務

- エネルギー管理体制の強化（理事級役員をエネルギー管理責任者とすること）
- 本学のエネルギー年間総消費量の報告（前年度との比較も行なう）
- 省エネ対策を実施し、本学のエネルギー年間総消費量の1%以上を毎年削減すること（努力義務）

※上記の削減ができなかった場合は、理由を報告する義務があります。

『特定事業者』の指定を受けると、より一層の省エネ対策を求められることとなります。今後も引き続き、省エネ推進委員会の活動にご協力をお願いします。

ふれあい看護体験が行われる



ベットメイキングを体験する参加した高校生

5月13日(木)に本学附属病院にて「ふれあい看護体験」が行われ、県内の中高生合わせて20名が看護業務を体験しました。この体験は、ナイチンゲールの誕生日である5月12日の「看護の日」にちなんで行われるもので、今回が20回目の実施になります。

参加者は白衣に着替えた後、小林病院長や及川看護部長から挨拶をうけ、それぞれの体験場所に分かれて、患者さんの搬送や清拭の援助、会話、車椅子での散歩など実際の看護業務を体験しました。また昼食では、病院で提供されているメニューを試食するなど、参加した中高生の皆さんにとって「看護の心を培うこと」や「将来の職業を選択」するうえで、貴重な体験となったようです。

附属病院で外来コンサートが催される



平成22年5月22日(土)午後2時から本学附属病院外来1階待合ロビーにおいて、今年で18回目となる岩手県民オーケストラによるコンサートが開かれ、入院患者さんやご家族らが生演奏に耳を傾けました。

このコンサートは、入院中の患者さんへ励ましと癒しを提供することを目的として、例年春と冬に開催されています。コンサートの開演に先立ち、内科学講座（消化器・肝臓内科分野）の滝川康弘教授から患者さんへ挨拶があり（写真左）、コンサートでは、「川の流れのように」や「崖の上のポニョ」など計8曲が演奏され、曲に合わせて、口ずさむ患者さんの姿も見られ、心温まるコンサートとなりました。

総合安全対策講習会が行われる

今年度の総合安全対策講習会が、5月24日(月)から13回（録画映像による開催含む）にわたって本学講堂にて行われ、合わせて2,035人が参加しました。

講習会では、院内における総合的な医療安全対策をテーマに、総論について佐藤譲医療安全管理部長、医療安全対策について高橋智医療安全推進室長、医薬品の安全使用について工藤賢三医薬品安全管理責任者、感染対策について櫻井滋感染症対策室長がそれぞれ講演し、5月24日の本開催では、平成21年度医療安全表彰者3名・1グループと院内感染対策功労部署3部署に佐藤部長から表彰状が授与されました。

なお、今年度は教育プログラムが改正され、取得単位数は職種に関係なく全員5単位（安全3、感染2）、対象となる講習会は原則として全て勤務時間内での開催となります。



新人職員教育研修会を受けて

● 花巻温泉病院4階 看護師 小野寄 エリ



新社会人として働いていくことに対して不安な部分はありましたが、岩手医科大学の職員の皆様からの「おめでとうございます。皆さんと一緒に仕事ができることを嬉しく思います。」といった温かいお言葉を頂き、感銘を受けたと共に、これから岩手医科大学の職員の一員として誇りを持って、私も頑張っていこうと改めて強く決めました。

私は岩手医科大学附属病院で実習をさせて頂いておりましたが、実習帰りのバス停で、病院帰りの患者さんとお話をする機会がありました。その患者さんから「お医者さんや看護師さんの笑顔や優しさは、私たちの何よりのお薬なんですよ。」と笑顔で話して下さいました。

私はその言葉に感動し、正に、岩手医科大学附属病院の理念である「誠の精神に基づく、誠の医療の実践」がなされているからこそその患者さんからの信頼、患者さんからの感謝の言葉だと感じました。看護師の倫理要領に「看護師は、常に、個人の責任として継続学習による能力の維持・開発に努める」とあるように、私も1日でも早く一流の仕事を覚え、患者さんに寄り添う看護が実践できるよう日々努力していきたいと思います。多くの職種、職員がいる中で、連携しより質の高い医療が提供できるよう、また、岩手医科大学の職員の一員として働けることに誇りを持ち、多くの方々の助けとなるよう、これから確かな知識や技術を身に付け、責任を持ち、信頼される仕事をしていきたいと思います。

● 中央臨床検査部 臨床検査技師 石澤 毅士



本研修会は、私が業務を遂行するためにも本学の基本理念である『誠の精神に基づく、誠の医療の実践』を中心とした医療従事者になりたいと強く意識付ける研修会となりました。医学は日進月歩で発展し、その時代に適応するためには、高度な医療技術を身につけることはもちろんですが、やはり基本は目の前にいる“患者さん”をよく診ることであり、常に忘れてはいけないものであると感じました。また、患者さんが適切な医療を受けるためには本学の基本理念にもありますが“安全”かつ“良質”な医療でなければなりません。特に安全面については、医療機関は信頼で成り立っているため『医療安全』の研修会に興味を惹かれ

ました。本学は医療安全の研修会を活発に実施しており、職員が研修会に参加しているかどうかを患者さんが見てもわかるように名札にシールを貼るなどしてアピールしていることが印象深いものでした。私も積極的に研修会に参加し、安全な医療を提供できるチームの一員になりたいと感じました。

現在、本学は矢巾地区への全面移転が課題とされておりますが、移転先には7TのMRIなど世界でも最先端の設備を整え、その中で業務できることは非常に光栄で、業務への意欲が高まります。

本研修会を終えて、私は『医療人たる前に誠の人間たれ』という建学の精神を基に本学の発展と患者さんへの医療に貢献できる臨床検査技師を目指し、努力したいと思います。

● 企画部企画課 事務員 渡辺 美花



今回、新入職員教育研修を受けさせて頂き、大学職員として今後働く上での心構えを学ぶことができました。特に、今までの自分中心の大学生活とは異なり、常に大学職員のチームワークの一員であるという自覚を持ち、責任ある行動を心掛ければならないと強く感じました。

そして、研修内容のなかには、医療安全など、医療現場における問題や、その予防・対策について学ぶ時間がありました。人はどうしてもミスをしてしまうものですが、医療現場におけるミスは人命に直接関わることがあります。そうしたなかで、何が大切かという、やは

り「チームワーク」でした。日頃から円滑に意見交換できる人間関係を醸成することです。そのためには職員同士、思いやりと信頼の心を持つことが必要であると思います。

私は事務職ですが、やはり医療現場で働く方々と同様に「チームワーク」がとても大切です。必要な情報をチーム内でしっかりと共有するために「報告」「連絡」「相談」を常に心掛け、職員の方々との信頼関係を築くことができるよう、あらゆる面で精一杯努力していきたいと思います。

大変貴重な学習をさせて頂き、本当にありがとうございました。

薬学部創剤学講座

薬学部発足の1年後の平成20年4月に開設された当講座は、佐塚、松浦、杉山の3名でスタートし、翌21年4月に加わった宮下の4名体制で研究、教育を行っています。

当講座は教育・研究領域を剤形や物理薬剤学を主体とした製剤学としておりますが、従来からの製剤学ではなく Drug Delivery System (DDS) をその研究主体に据えていることより“剤形を創る“ということで創剤学講座という講座名になっております。薬学部にしかない専門分野であることより、その特徴を生かして医学部、歯学部の先生方との共同研究も進展してきており、多くの可能性を追求していきたいと考えています。

今年度からは4年生が講座配属され、これまで

は教員だけだった研究室によく大学の講座らしい活気が出てきております。臨床に近い基礎講座としての役割を教育の上でも果たしていきたいと思っております。
(教授 佐塚 泰之)



看護部 (中5階・MFICU)

中5階・MFICU (母体胎児集中治療室) は、妊産褥婦・新生児・婦人科疾患の方々が入院しており、女性のライフサイクル全般にわたるケアを行っています。中5階は、MFICUの後方病床としての機能を果たすと共に、NICUから転入した



児と新生児が、健やかに成長発達できるよう、援助しています。婦人科疾患の患者は、化学療法や良性腫瘍の手術を受ける方が主に入院しており、早期退院を目標としたケアを行っています。

MFICUは、周産期三次 (高次) 医療を担う岩手県唯一の総合周産期母子医療センターです。リスクの高い妊婦の入院や県内各地からの母体搬送を受け入れており、母子の命を守るために医師、NICU、地域と連携し日々、奮闘しています。また、不安を抱える妊産褥婦が多いため、助産師外来や産後の電話訪問を行い、心に寄り添ったケアと継続看護に力を入れています。

これからも女性のライフサイクルを支援できるようがんばっていききたいと思います。

(主任看護師 館林 淑子)

理事会報告

■ 4月定例 (4月26日開催)

1. 教育職員の人事について (平成22年5月1日付)
 <昇任>
 歯学部口腔機能構造学講座 (口腔解剖学分野)
 嘱託教授 藤村 朗 (前准教授)
2. 総合移転整備計画第二次事業に係る機器備品の発注について
 選定業者と再度価格交渉を行ったうえで発注することとした。

3. 矢巾キャンパス500人講堂の仕様変更について
 当初の仕様計画から、さらに快適性・利便性を考慮して変更することとした。
 <変更点>
 ・階段床の勾配を緩やかにする。
 ・劇場等に設置されている背面の低い椅子及び収納机に変更する。
 ・ホワイエの床をフローリングからカーペット敷きにする。
 ・天井高のある明るい空間にする。

本学名誉教授 涌澤 玲児 先生の逝去



涌澤玲児殿におかれましては、平成22年5月4日午後2時17分に本学附属病院において逝去されました。享年80歳でした。

涌澤先生は昭和30年3月本学本科卒業後、昭和31年5月に本学外科学第一講座副手に採用されました。その後岩手県立中央病院勤務を経て、昭和49年12月に本学麻酔学講座教授に就任され、平成11年4月に名誉教授の称号が授与されました。

研究面では、専門の麻酔科学において、安全な開心術のための麻酔法の研究に情熱を注ぎ、低体温麻酔を開発し、心臓外科手術の発展に寄与しました。また、慢性難治性疼痛患者、緩和ケア患者の疼痛対策に尽力し、疼痛患者のQOL向上に努め、疼痛対策先駆者として東北地方においてその指導力を発揮されるなど、多大な功績が評価され平成21年に「瑞宝中綬章」を受章されました。ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたします。

編集後記

今年度から編集委員の仲間入りをさせて頂きました。多様な職種の人達で構成される編集委員会の仕事をさせて頂き、とても新鮮な気持ちとともに、発展を続ける岩手医科大学の人的規模の大きさを実感しております。毎月発行のフルカラーとなった大学報のなかで新鮮で楽しくしかも役に立つ情報提供が出来るように、微力ながら務めさせて頂きたいと思っております。



今号は私達が担当しました
(左から 山崎、千葉、佐藤)

(編集委員 佐藤 仁)

岩手医科大学報 第405号

発行年月日 平成22年6月28日

編集 岩手医科大学報編集委員会

事務局 企画部 企画課

盛岡市内丸19 - 1

TEL 019-651-5111 (内線7022)

FAX 019-624-1231

E-mail:kikaku@j.iwate-med.ac.jp

印刷 河北印刷(株) 盛岡市本町通2-8-7

TEL 019-623-4256

E-mail:office@kahoku-ipm.jp

「烏帽子岩」と「三ツ石」の巨石について

古来より、大岩や崖は「岩座（いわくら）」と呼ばれ、神が鎮座するところであったそうです。

今回は、櫻山神社裏にある「烏帽子岩（えぼしいわ）」と岩手の呼称の由来になっている伝説の神社、三ツ石神社境内にある「三ツ石」の巨石をご紹介します。

その巨大さと見事さには、誰もが驚かされますので、ご覧になっていない方は是非、その不思議な空間にお立ち寄りください。



「烏帽子岩」は、慶長2年（1597）頃、盛岡城築城の際、土の中から頭を出している三角形の小さな岩でありましたが、その岩を取り除くため、掘り進めたところ、出てきた大岩が公家や武家が使用する烏帽子の形に似ていたため、「烏帽子岩」と名付けられたそうです。

烏帽子岩の大きさとユニークな形に圧倒されますが、烏帽子岩をしっかりと支え台座になっている石もさらに大きなものです。

〈撮影日：4月30日〉

「三ツ石」は、名須川町の東頭寺裏にある三ツ石神社境内の三つの巨石です。

その昔、里に出てきた鬼が、悪行の限りを尽くしていたため、三ツ石の神様に退治をお願いしたところ、鬼は巨大な石に縛りつけられたそうです。降参した鬼は、二度と悪行をしないことを誓い、三つの石に約束の手形を押したという言い伝えがあります。

岩の手形から、「岩手」という地名と二度と鬼が来なくなったことから、「不来方（こずかた）」と呼ぶようになったそうです。

〈撮影日：5月4日〉



〈写真撮影：画像情報センター〉

第74回大学報編集委員会

日 時：平成22年6月17日(木) 午後4時～午後5時

出席委員：大堀委員長、山崎、影山、松政、齋野、藤本、小山、佐藤、佐々木(志)、佐々木(光)、及川、千葉、佐々木(忠)、中島、岩動、武藤、野里

欠席委員：千田、佐々木(さ)